

第1章 朝霞市のまちづくりに求められること

1 市民の意向

本計画の策定にあたっては、市民の皆さまの声を十分に反映するよう、市民参画機会の充実を図っています。

ここでは、市民参画のうち市民意識調査、アンケート調査及びまちづくりサロンの結果から住環境や都市基盤整備、都市環境等、よりよいまちづくりにつながる主な内容を整理します。

(1) 第6次朝霞市総合計画の策定にかかる市民意識調査

本市では「第6次朝霞市総合計画」の策定にあたって、まちづくりに対する市民の意向を把握し、基礎資料として活用するために、市民意識調査を行っており、本計画にもこれを活用します。

■調査概要

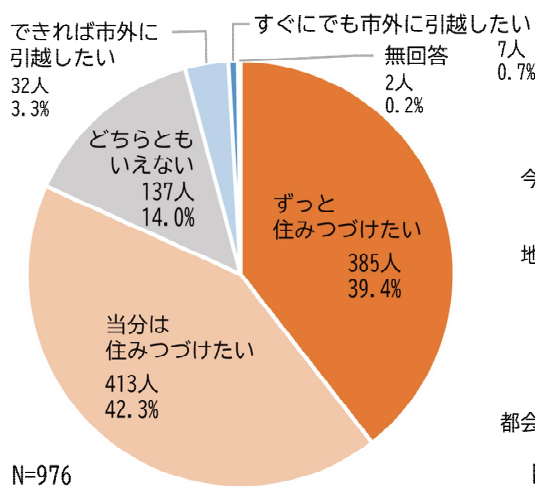
調査対象	市内居住の18歳以上の男女	
対象者数	3,000人	
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	郵送による配布・回収、インターネットによる回答を併用	
調査期間	令和5（2023）年11月24日（金）～12月25日（月）	
調査項目	①朝霞市の住みよさについて ②地域との関わりについて ③市政について	④市の全般的な取組について ⑤これからのまちづくりにについて ⑥自由意見
回収結果	有効回収数 976票（郵送回答：743票、Web回答：233票）/3,000票 有効回収率 32.5%	

■結果概要

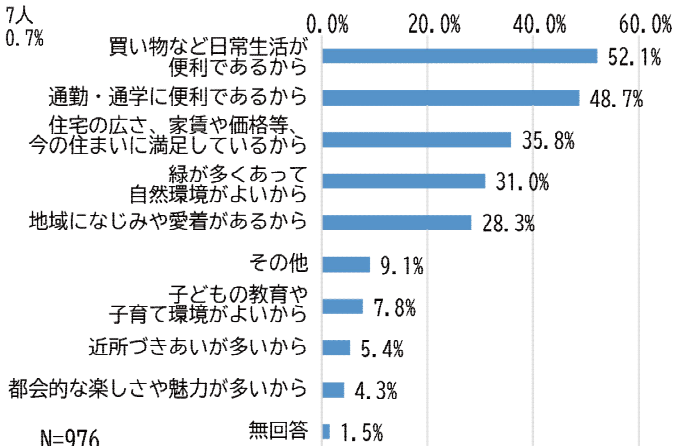
①朝霞市の住みよさについて

本市への定住意向について、“住みつづけたい”（「ずっと住みつづけたい」「当分は住みつづけたい」）と思う人が80%以上を占めているのに対し、“住みつづけたくない”（「出来れば市外に移りたい」「すぐにでも市外に移りたい」）と思う人はわずか4%程度となっています。

“朝霞市に住みつづけたい”理由を尋ねたところ、住宅の条件を除き、「買い物など日常生活が便利であるから」「通勤・通学に便利であるから」「緑が多くあって自然環境がよいから」が多く挙げられています。



本市への定住意向について（単一回答）

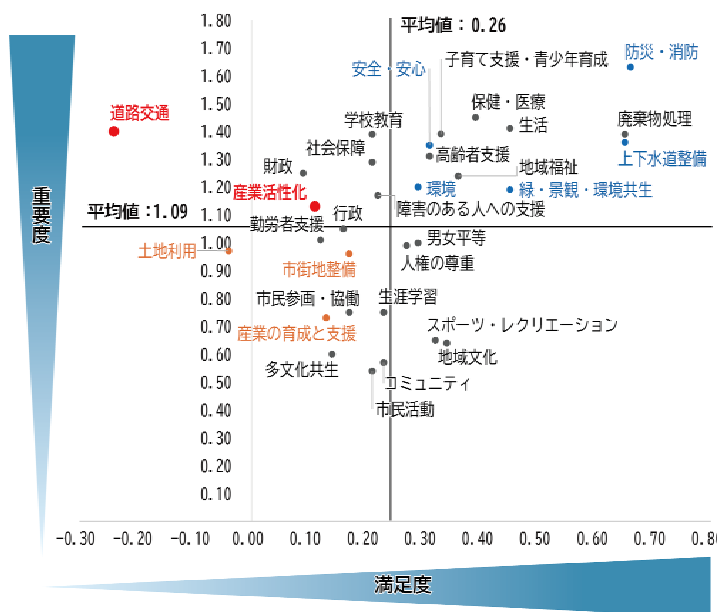


本市に住みつづけたい理由について（複数回答）

②市の全般的な取組に対する評価について

市の全般的な取組に関する満足度・重要度について、満足度が平均値以下かつ重要度が平均値以上の項目のうち、まちづくりと関わりのある項目は「道路交通」と「産業活性化」が挙げられています。そのほか、満足度が平均値以下で、状況に応じて取り組むべきと考えられる項目として、「土地利用」「市街地整備」「産業の育成と支援」が挙げられています。

一方、重要度・満足度がともに平均値以上で本市の強みとみられる項目のうち、まちづくりと関わりのある項目は「防災・消防」「上下水道整備」「緑・景観・環境共生」「安全・安心」「環境」が挙げられています。

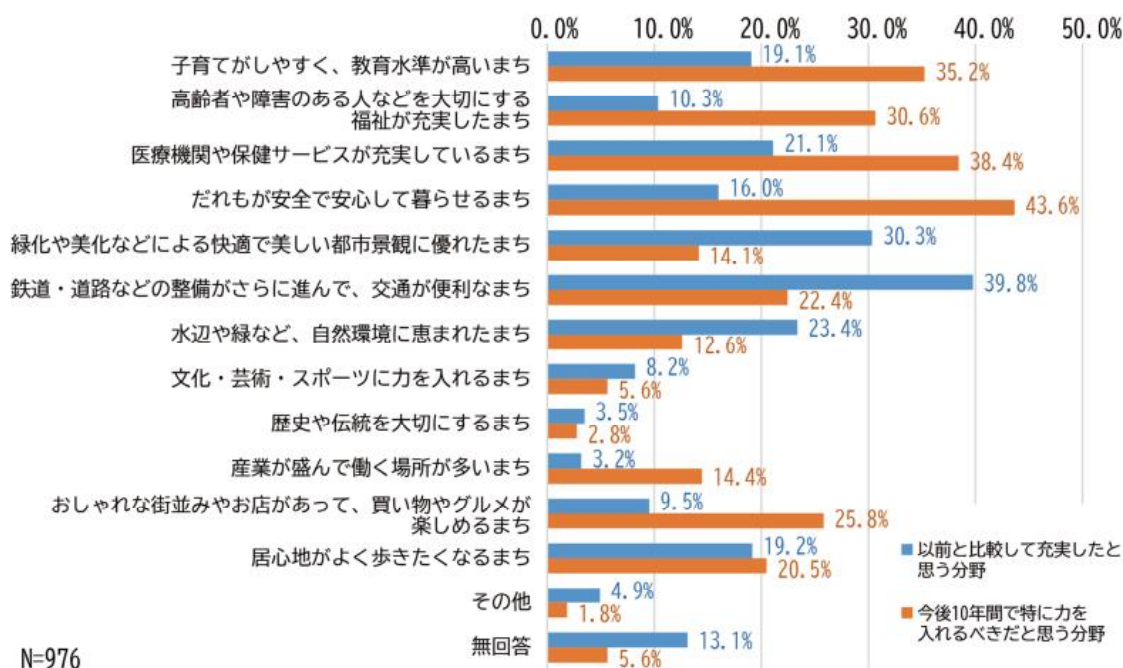


市の全般的な取組に対する評価について

③朝霞市のまちづくりに対する評価と要望について

「以前と比較して充実したと思う分野」について、「鉄道・道路などの整備がさらに進んで、交通が便利なまち」「緑化や美化などによる快適で美しい都市景観に優れたまち」が多く挙げられています。

「今後10年間で特に力を入れるべきと思う分野」について、「だれもが安全で安心して暮らせるまち」が40%以上と最も多く挙げられ、次いで「医療機関や保健サービスが充実している」「子育てがしやすく、教育水準が高いまち」が挙げられています。



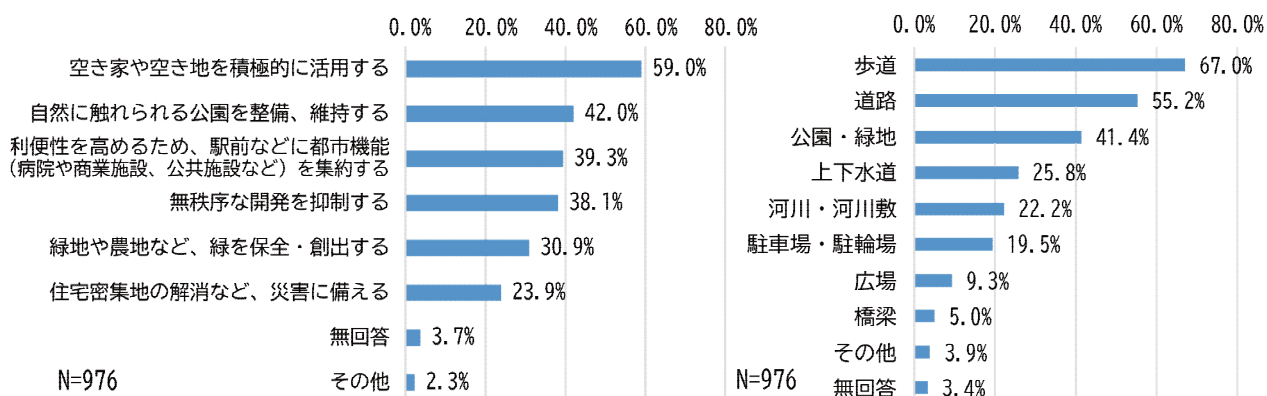
本市のまちづくりに対する評価と要望について（複数回答）

④今後の土地利用について

今後の望ましい土地利用として、「空き家や空き地を積極的に活用する」が最も多く挙げられたほか、「自然に触れられる公園を整備、維持する」「利便性を高めるため、駅前などに都市機能（病院や商業施設、公共施設など）を集約する」等も多く挙げられています。

⑤都市基盤整備に対する要望について

市内の都市基盤の維持・整備に力を入れるべきと思われるものとして、「歩道」と「道路」が最も多く挙げられ、そのほか「公園・緑地」等も多く挙げられています。



今後の土地利用について（複数回答）

都市基盤整備に対する要望について（複数回答）

(2) 朝霞市都市計画マスタープラン策定にかかる市民アンケート調査

本計画をより市民の暮らしに寄り添った計画とするため、現在の暮らしの状況や将来のニーズを把握する市民アンケート調査を行いました。

■調査概要

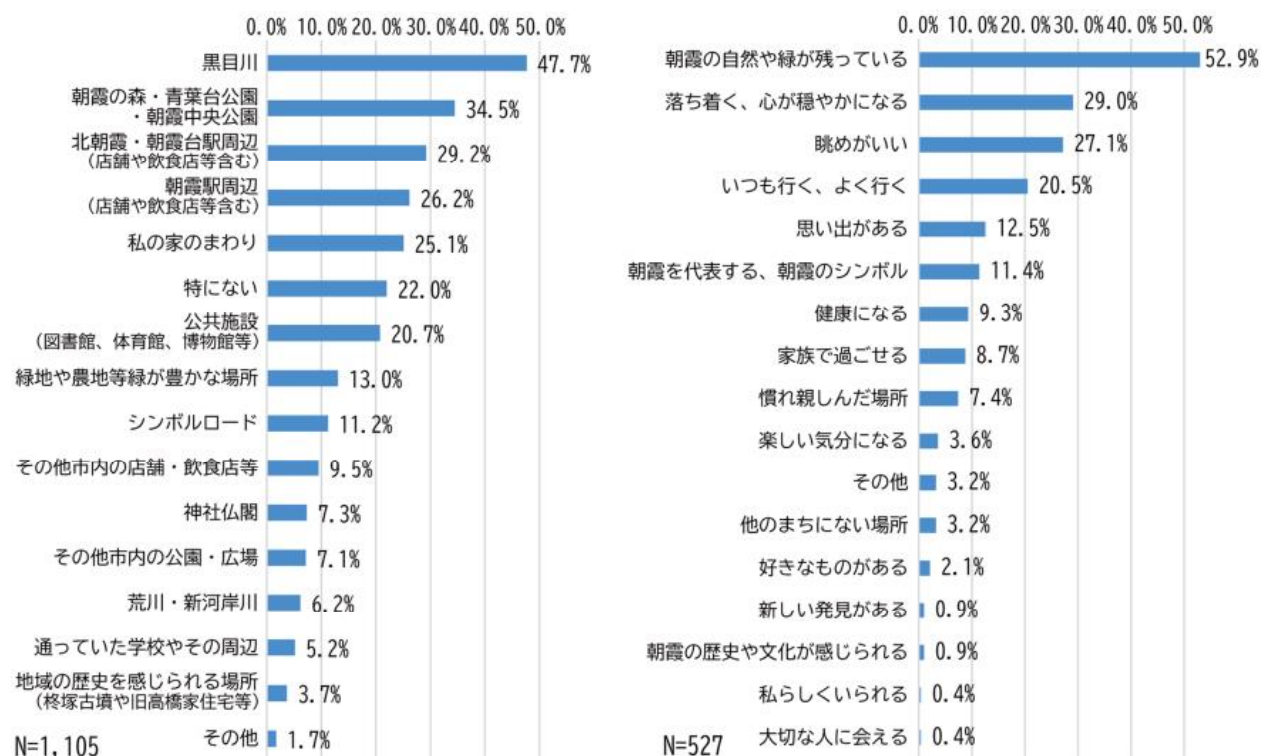
調査対象	市内在住の18歳以上の方	
対象者数	3,000人	
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	郵送による配布・回収、インターネットによる回答を併用	
調査期間	令和6（2024）年3月25日（月）～4月30日（火）	
調査項目	①暮らし方の状況とニーズについて ②住まい方の状況とニーズについて	③自由意見
回収結果	有効回収数 1,105票（郵送回答：617票、Web回答：488票）/3,000票 有効回収率 36.8%	

■結果概要

①朝霞市内で「大切に思う場所」について

市内で「大切に思う場所」については、「黒目川」が約48%と最も多く挙げられています。そのほか、「朝霞の森・青葉台公園・朝霞中央公園」、「北朝霞・朝霞台駅周辺」、「朝霞駅周辺」等も多く挙げられています。

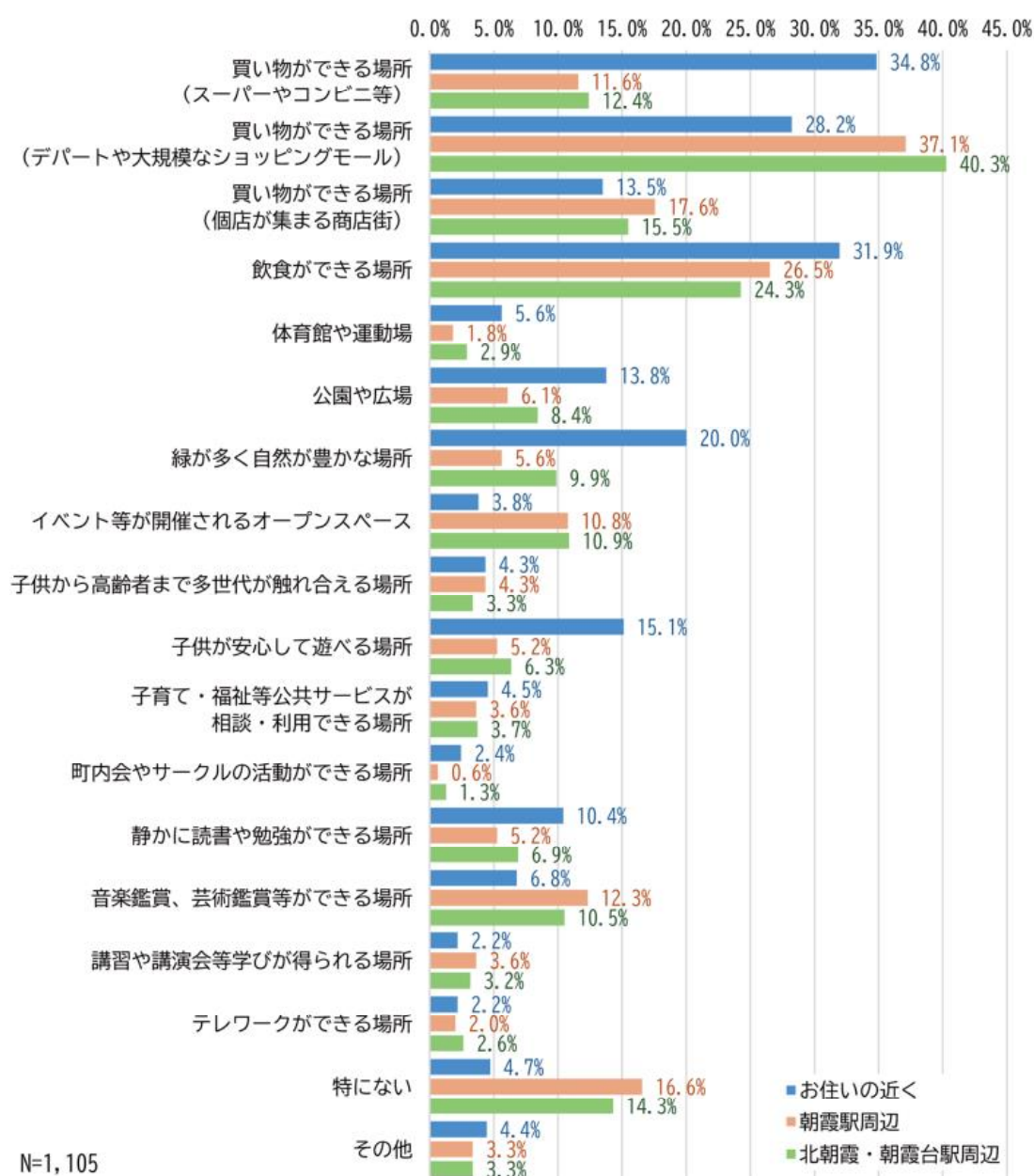
「黒目川」が挙げられた理由としては、「朝霞の自然や緑が残っている」、「落ち着く、心が穏やかになる」等が挙げられています。



②駅周辺やお住いの近くでの施設に関する要望

朝霞駅周辺、北朝霞・朝霞台駅周辺に求める場所については同様な傾向を示し、いずれも「買い物ができる場所」や「飲食ができる場所」との回答が多く占めており、商店や飲食店の充実に対するニーズが高いことが推察されます。「買物」や「飲食」を除くと、「音楽鑑賞、芸術鑑賞等ができる場所」や「オープンスペース」の確保が求められています。

お住いの近くに求める場所として、「買い物ができる場所」や「飲食ができる場所」との回答が多く占めているのは駅周辺と変わりませんが、スーパーやコンビニ等の日常的な買い物施設のニーズの方がデパートやショッピングモールより高くなっています。また、「緑が多く自然が豊かな場所」や「子供が安心して遊べる場所」のニーズが高くなっています。



駅周辺やお住いの近くに求める施設（複数回答）

(3) まちづくりサロン

市民の皆さまのご意見を本市のまちづくりの方向性や将来像に反映するとともに、まちづくりに対する市民の皆さまの関心を高めるために、多様な属性の市民を対象としたまちづくりサロン（ワークショップ）を実施しました。

①暮らしサロン

市民や市内で働く方を対象に、「暮らし～将来も朝霞に住み、通い、働く～」というテーマで、自分と異なる年齢や立場の人になったつもりで20年後のまちの姿及びそれを実現するための取組アイデアを考えていただきました。



暮らしサロン

■開催概要

日 時 ・ 会 場	令和6(2024)年6月22日(土) 10:00～12:00 市役所会議室
参 加 人 数	18人(4グループ)
テ ー マ	暮らし～将来も朝霞に住み、通い、働く～
対 象 者	市民や市内で働く方々

■主な成果：【20年後の「こうなっていたらいいな」を実現する取組アイデア】

「多様な暮らしと世代のミックス」：

- 多様な世代が暮らしやすく、交流（ミックス）ができる場所と機会を設ける
- 居場所づくりに資する社会実験に積極的に取り組む 等

「身の丈に応じた商業・経済」：

- 周辺の都市と競合しない商業の育成や、市のなかで創業してもらうための支援
- 民間活力と連携した新たな取組に挑戦する 等

「みどりを朝霞市の魅力として活用」：

- 市内のみどりを守るだけでなく、本市の魅力のひとつであり参画や交流ができる場所としてもっと活用する 等

「挑戦ができる環境」：

- 空き家や未利用地を暫定活用して、ビジネスややりたいことにチャレンジできる場所を用意する 等



暮らしサロン

②高校生サロン

市内の高校に通う高校生を対象に、「未来の私とまちの姿」というテーマで、15年後（30歳程度）の自分をイメージして将来理想のまちの姿を考えていただきました。

■開催概要

	朝霞高校編	朝霞西高校編
日 時 ・ 会 場	令和6（2024）年7月4日（木） 13:30～15:30 朝霞高校	令和6（2024）年7月17日（水） 13:30～15:30 市役所会議室
参 加 人 数	12人（2グループ）	30人（6グループ）
テ ー マ	未来の私とまちの姿	
対 象 者	市内の高校に通う高校生	

■主な成果：【理想のまちのキーワード】

「自分・家族」：

- 自分らしくいられる、家族を大切に
する 等

「ゆとり、時間」：

- 好きなことをする時間がある、ゆとり
のある生活 等

「やさしさ」：

- 人にやさしい、自分にもやさしい、
自然にやさしい 等

「豊かさ」「QoL」：

- 量より質的な豊かさ、生活の質を高める 等

「つながり・人間関係」：

- 好きなことや伝統を通して人や地域とつながる、ボランティア活動に参画する 等

「ロマンチック」：

- 出会いがある、花壇やきれいな公園や
素敵なカフェがある 等

「まちの姿」：

- 交通網が使いやすい、ビルが多いがみ
どりと共存、こどもが遊べる場所が豊
富、素敵なカフェがある、持続可能で
住みやすい 等



高校生サロン 朝霞高校編



高校生サロン 朝霞西高校編

③駅周辺サロン

駅周辺の関係者や駅周辺のまちづくりに興味のある方々を対象に、「将来の駅周辺がこうなったらいいな」というテーマで、駅周辺の課題と理想の将来、そしてその将来を実現するために求められる取組のアイデアを考えていただきました。

■開催概要

	北朝霞・朝霞台駅周辺	朝霞駅周辺
日 時 ・ 会 場	令和6(2024)年7月11日(木) 18:00~20:00 産業文化センター	令和6(2024)年7月18日(木) 18:00~20:00 市役所会議室
参 加 人 数	18人(3グループ)	12人(3グループ)
テ ー マ	将来の駅周辺がこうなったらいいな	
対 象 者	駅周辺の関係者や駅周辺のまちづくりに興味のある方々	

■主な成果：【駅周辺の魅力を向上するための取組アイデア】

北朝霞・朝霞台駅周辺

「乗換」:

- 移動手段も選択肢を増やすために交通広場を整備する 等

「滞在」:

- 滞在や寄り道したくなる駅前にするために駅周辺に滞在空間をつくる 等

「チャレンジ」:

- お店のバラエティーを増やすために市民・事業者がチャレンジできる環境を用意する 等

「ブランディング」:

- 地域ブランディングを促進するために「にんじん」をPRする 等



駅周辺サロン 北朝霞・朝霞台駅周辺

朝霞駅周辺

「ウォーカブル」:

- 安全に歩けるように歩行者と公共交通優先のウォーカブルな交通環境を整える 等

「複合利用」:

- 広場や様々な施設を複合的な目的・機能で使えるようにするために植栽やベンチ等の設えを整える 等

「チャレンジ」:

- まちなかで創業できるように空き家・空き店舗と利用希望者とのマッチングできる仕組みを整える 等



駅周辺サロン 朝霞駅周辺

2 朝霞市を取り巻く社会動向

本市における市民生活や自治体運営に大きな影響を及ぼしうる国や社会経済全体の動向について、本計画策定の背景として特に踏まえるべきことを、以下の8つに整理しました。

- ①人口減少・高齢化の進行と財政への影響
- ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展
- ③安全・安心な暮らしに対する意識の高まり
- ④新たなモビリティ等の移動手段の多様化
- ⑤人生100年時代の到来とウェルビーイングの重視
- ⑥多様性を認め合う社会の形成と人権の尊重
- ⑦持続可能な社会の構築に向けた取組の進展
- ⑧DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展

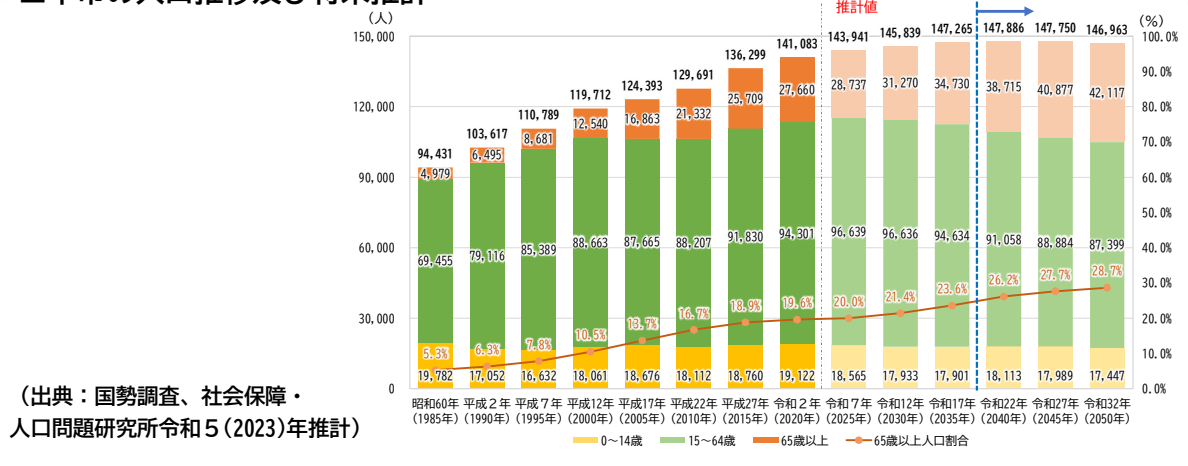
①人口減少・高齢化の進行と財政への影響

令和6（2024）年における日本の総人口は、1億2,488万5,000人であり、平成28（2016）年と比較して300万人近い減少となりました。国によれば、日本の総人口は今後も減少傾向で推移し、令和52（2070）年には8,700万人程度と推計されています。

また、令和6（2024）年の高齢化率は28.8%であり、平成28（2016）年と比較して2.2ポイント上昇しました。国によれば、高齢化率は今後も上昇傾向で推移し、令和52（2070）年には38.7%程度と推計されています。このような人口減少・高齢化の進行は、経済の停滞だけでなく、地方自治体等の財政状況の悪化を招き、また、コミュニティの担い手の減少にもつながる等、日本の社会経済のあらゆる側面に多大な影響を及ぼすものと懸念されています。

本市では人口の増加傾向が継続しており、今後もしばらく増加する見込みですが、令和22（2040）年には人口減少に転じると見込まれます。また、高齢化率も継続的に上昇することが見込まれます。そのように人口減少・高齢化の進行により人口バランスの変化や財政状況の悪化が懸念される中においても、都市としての活力を保ちながら、誰もが暮らしやすく選ばれるまちづくりを進めていくことが求められます。

■本市の人口推移及び将来推計



②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展

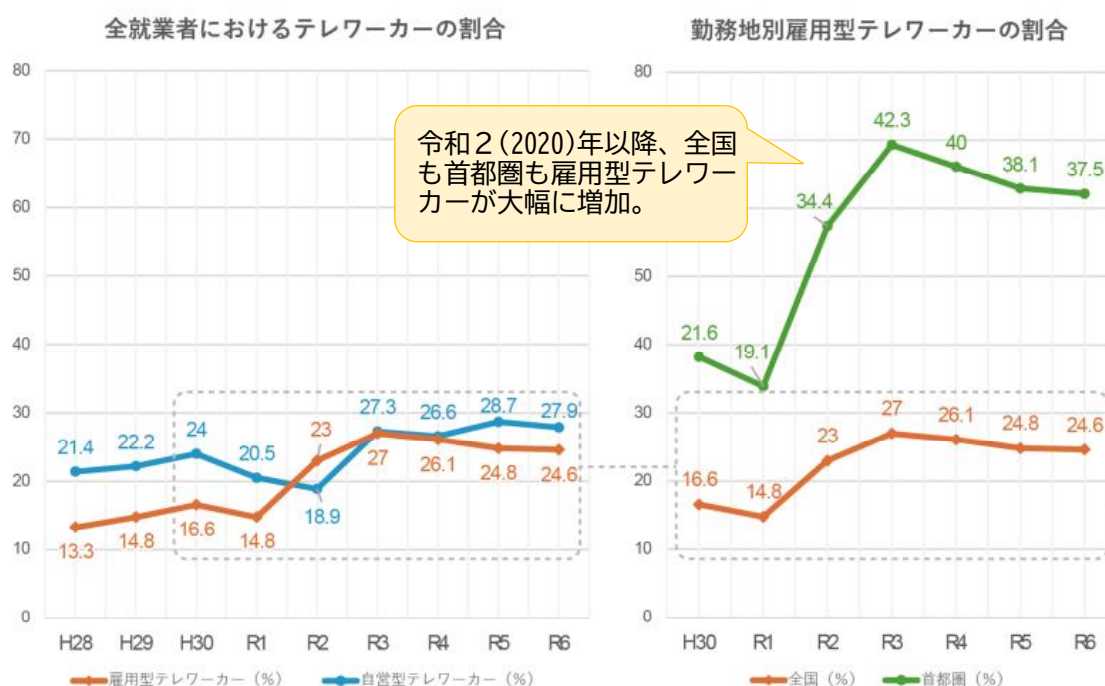
令和2（2020）年から感染拡大が見られた新型コロナウイルス感染症は、社会経済のみならず、人々の働き方や日常的な行動に至るまで、大きな影響を及ぼし、医療提供体制のひっ迫をはじめ、消費の縮小、人々の孤独・孤立の深刻化等が問題となりました。

一方、感染症の感染拡大を契機として、テレワーク、オンライン授業、ネットショッピング、キャッシュレス決済等、様々な場面でのオンライン化が進んだことにより、人々の暮らし方や働き方の変革が急速に進展しました。

このような変革を背景として、ヒトやモノの流れが大きく変化しました。その結果、人々の居住地選定や企業の立地選定の自由度が増し、都市部から地方への人の移住や企業の移転も見られています。

本市は、都心近郊の都市でありながら武蔵野台地や河川等の豊かな自然が残る、多様な住環境の選択肢があることがまちの魅力です。ライフスタイルが多様化する中で、選択できる住環境の多様性をさらに伸ばしていくことが求められます。

■テレワーカーの推移



自営型テレワーカーについて、R3年度に定義を変更したため、それ以前との直接比較は困難。

従来の定義では、「普段仕事を行う事業所・仕事場とは違う場所」で実施することが要件。このため会社という普段働くことが要件。このため、会社という普段働くことが想定される特定の場所がない自営型では働く場所が自宅にシフトすると、従来の要件から外れることとなる。これが、R2年度に自営型テレワーカー割合が減少した理由と考えられているため、R3年度に定義を変更し、「普段仕事を行う場所が自宅」であるテレワークも対象とした。

なお、雇用型についても、自宅テレワーク中心の働き方の増加を想定し、併せて定義を変更した。

〈R3年度以降のテレワークの定義〉

雇用型 ICT等を活用して、普段出勤して仕事を行う勤務先とは違う場所で仕事をする、又は勤務先に出勤せず自宅その他の場所で仕事すること

自営型 ICT等を活用して、自宅で仕事をする、又は、普段自宅から通って仕事を行う仕事場とは違う場所で仕事すること

（出典：令和6（2024）年度テレワーク人口実態調査）

③安全・安心な暮らしに対する意識の高まり

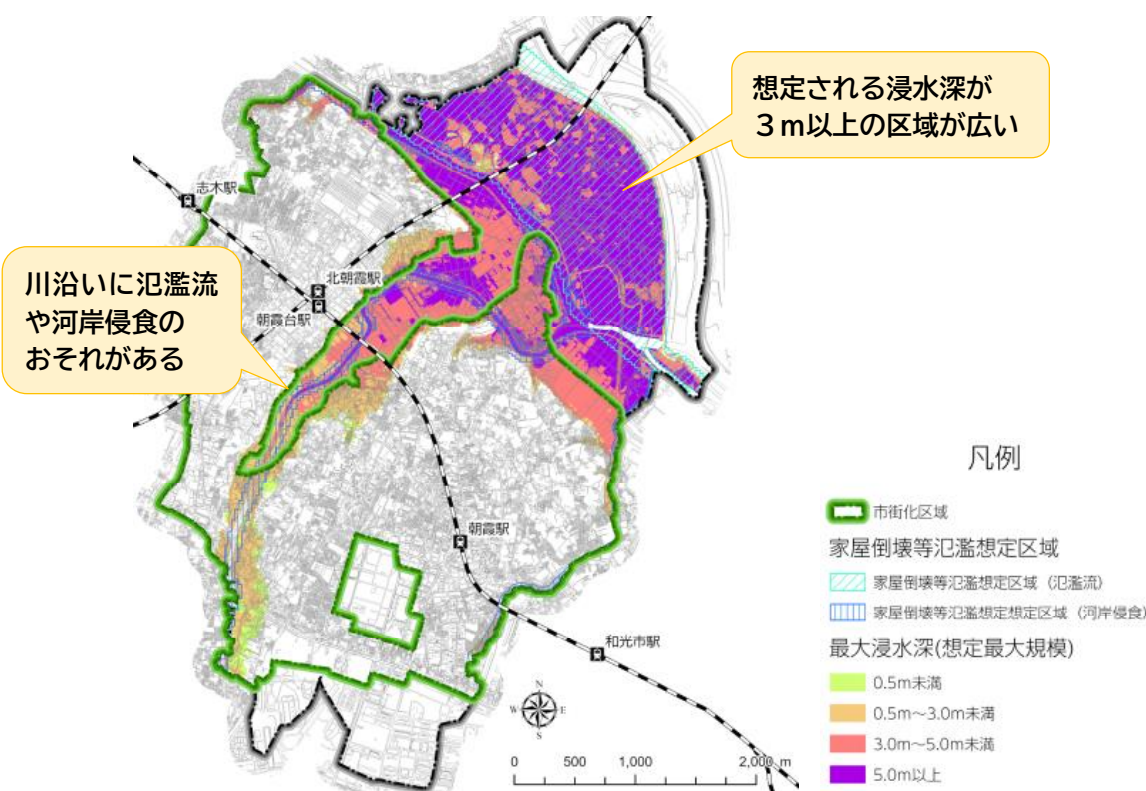
平成 23（2011）年東日本大震災、令和 6（2024）年能登半島地震による被害や、大規模地震である南海トラフ地震の発生への危惧、さらには集中豪雨の頻発等を受け、安全・安心な暮らしに対する人々の意識も高まっています。

このような背景のもと、大都市への人口の集中による大規模開発等が進む中、防災・減災のための体制・インフラ整備や、自助・共助による取組の進展、多様な主体の連携による防災活動の推進等、災害に強いまちづくりが改めて求められています。

交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、身近な生活道路における交通事故は依然として発生しています。また、刑法犯認知件数は増加傾向にあります。安全・安心なまちづくりへの関心が高まっている中で、警察等関係機関と地域との連携の下、人々の交通安全や防犯意識等をさらに高めながら、こどもから高齢者まで誰もが安全・安心に暮らせる地域環境をつくることが求められています。

本市においても洪水による浸水想定区域が広範囲にあることや、朝志ヶ丘地区や三原地区等、住宅が密集しているエリアも多数見られます。災害が発生しても、被害を最小限に留めるとともに素早く確実に復旧でき、日常生活のなかで防犯とともに備えができているまちづくりが求められます。

■本市における浸水想定区域及び家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模降雨）



（出典：荒川水系 新河岸川流域洪水浸水想定区域図・
荒川洪水浸水想定区域図）

④新たなモビリティ等の移動手段の多様化

人口減少等による公共交通の利用者数の減少や、公共交通の労働環境の変化等を受けた運転手不足により公共交通の維持が困難になることが懸念されます。

一方で、自動運転等の技術の進展や、シェアサイクル・電動キックボード等の新たなモビリティの登場等、移動を支える手段の多様化が進んでおり、それらを活用したまちづくりが求められています。しかし、新たなモビリティ等の登場に伴うルールの普及と啓発が課題となっています。

本市では、環境と人にやさしい交通ネットワークの形成に向けて、令和元（2019）年よりシェアサイクルが導入され、市内にはサイクルポートが高密度で配置されています。今後公共交通の維持が難しくなる状況が想定される中で、新たなモビリティの積極的な導入により、目的に応じて移動手段を選択できる環境の確保が求められています。

⑤人生 100 年時代の到来とウェルビーイングの重視

日本は世界的に見ても長寿国であり、「人生 100 年時代」の実現に近い国の一つとなっています。100 年という長い人生をより充実したものにするため、こどもから高齢者まで全ての国民に活躍の場がある社会をつくることや、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の延伸が求められています。

一方、世界保健機関（WHO）が提唱したウェルビーイング（Well-being、身体的・精神的・社会的に良い状態にあること）を重視する考え方が日本でも広まりつつあり、長い人生を健やかに過ごすための健康づくりや、就労、地域活動等、社会への参画促進に向けた取組の重要性が増しています。

本市の朝霞駅や北朝霞・朝霞台駅周辺では、まちへの愛着や生活の質を高めることを目的に、駅前広場や公園、道路等の公共空間を活用した、住んでいる人も訪れる人も誰もが「居心地が良く、歩きたくなるまち」、そして「人でにぎわう魅力的なまち」づくりの取組みが進められています。このような取組を駅周辺に留まらず市内全域に展開していくことが求められます。

■シェアサイクルポートの分布



■シンボルロード



左：平常時
下：ストリートテラス時



⑥多様性を認め合う社会の形成と人権の尊重

社会的な孤独・孤立を一因とする自殺や、子ども・高齢者に対する虐待等の問題が深刻化しています。また、SNSを通じた新たな人権問題の顕在化、外国人等に対する根強い差別、政治参画・経済参画の分野における著しい男女間の格差等、日本にはいまだに様々な差別・偏見といった解決すべき課題が存在しています。

このような社会的な孤立や、差別・偏見は、それ自体が社会問題であるだけでなく、多様な人々の活躍を妨げ、社会の活性化を阻害する要因にもなっており、解消に向けた継続的な取組が求められています。

このような社会的背景を踏まえ、日本でも多様性（ダイバーシティ）や公正さ（エクイティ）、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の尊重という考え方が広がりつつあります。誰もがその人らしく活躍できる社会の実現に向け、国や地方自治体だけでなく、事業者、地域社会、国民一人一人に至るまで、様々な場面における取組が求められています。

本市では多様性を尊重し、誰もが自分らしく生きられる社会に向けた取組が進められています。まちづくりはその土台を担うものであり、誰もが安全に安心して生活ができ、かつ自分らしく、いきいきと活動できる場や空間の創出が求められます。

⑦持続可能な社会の構築に向けた取組の進展

地球規模での大規模な気候変動は、自然災害の激甚化、人々の生活環境の悪化、生物多様性の喪失等を世界各地で引き起こしており、持続可能な社会の構築に向けた対策が世界的に推進されています。

他方、国際連合（UN）は、平成 27（2015）年に SDGs（持続可能な開発目標）を採択し、令和 12（2030）年までに、持続可能でより良い世界を目指す決意を示しています。この SDGs の実現に向け、エネルギー、産業、自然環境等の幅広い分野にわたって、国・地方自治体、事業者、国民一人一人といった様々な主体による、持続可能な社会の構築に向けた取組が期待されています。このような国際的な潮流の下、日本でも、令和 2（2020）年のカーボンニュートラル宣言や、クリーンエネルギーへの転換等を目指した GX（グリーン・トランスフォーメーション）の推進等を通じ、持続可能な社会の構築に向けた取組を進めています。

本市は、都心近郊でありながら農地や斜面林、黒目川等の豊かなみどりが残されており、朝霞らしい心安らぐ風景は本市の魅力となっています。この魅力を次の世代に守り育てていくことが求められます。

⑧DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展

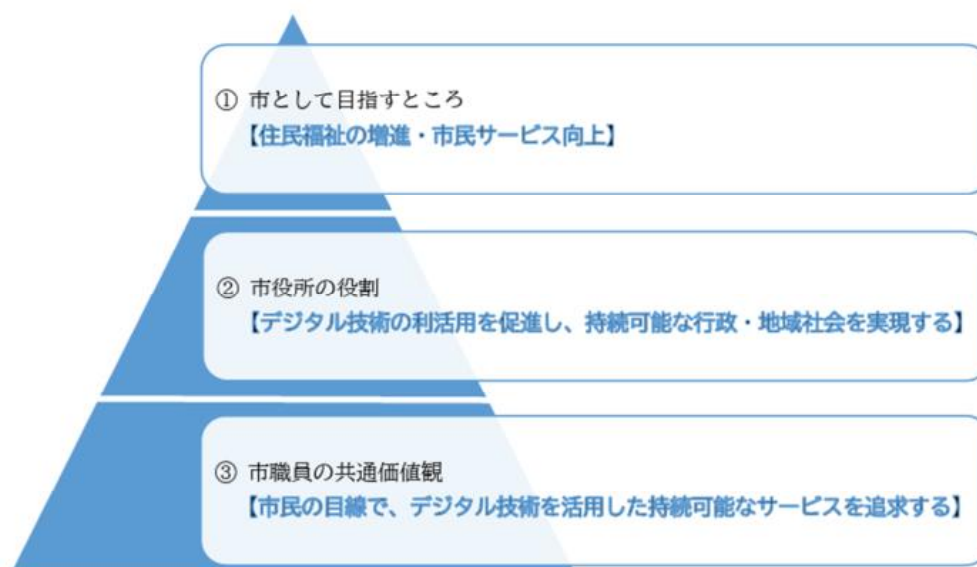
インターネットをはじめとした ICT の著しい発展により、社会経済システム全体から人々の日常生活全般に至るまで、大きな変革が生じています。

DX（デジタル・トランスフォーメーション）とは、「ICT の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」とされており、世界各国において国を挙げた取組が推進されています。

このような潮流の中、国はデジタル庁を設置し、誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を目指しています。加えて、国は ICT を活用して地方を活性化することを目的として、令和 3（2021）年に「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、デジタル基盤の整備やデジタル人材の育成・確保等を通じ、デジタルの力による社会課題の解決と地方の魅力の向上を図るものとしています。

本市では、多様化・複雑化する市民ニーズに対応しつつ、将来にわたって継続して行政サービスを提供することが求められ、行政情報のデジタル化による業務の効率化や自動化、省力化を進めているところです。まちづくりにおいても、リスクや将来イメージの共有にはデジタル技術を活用した「見える化」は有効な手段であり、積極的な活用が求められます。

■本市におけるデジタル化に向けた取組「朝霞市デジタル化による目指す姿」



出典：朝霞市行政情報デジタル化推進方針(令和 4 (2022)年 10 月)